

第1回淀川河川敷十三エリア魅力向上協議会 議事要旨

日 時：令和3年3月31日（水）10:00～11:40

場 所：淀川区役所5階会議室

出席者：別添の「出席者一覧」のとおり

要旨：

1. 開会

2. 出席者自己紹介

3. 淀川区長あいさつ、協議会設立の趣旨

- ・ 淀川区の人口動態は、20代は転入超過、10代未満や30代は転出超過である。大阪市全体も同様の傾向ではあるが、子どもができて大きくなってきたところで市外に転出するケースが多いと分析されている。
- ・ 淀川区の中でも特に十三駅周辺は、子育て世帯が特に少ない状況。持続可能なまちのにぎわいづくりを考えると、子育て世帯にいかに住み続けたいと思ってもらえるかは非常に重要なポイントである。
- ・ 淀川河川敷十三エリアは、住民の憩いの場であるとともに、毎日50万人以上の阪急電車の利用者が眺める貴重な観光資源であるが、現状としてはその魅力を最大限引き出せている状況にはない。
- ・ 十三駅前のもと淀川区役所跡地にできる複合施設は2026年オープン予定。人が繋がる「交流型ワイガヤ図書館」を核とした官民連携の複合施設となる。
- ・ 今後、施設のオープンに向け、新たなまちのにぎわいづくりの拠点として、地域住民が主体となるような活用方法を検討していく方針である。
- ・ 現在、河川敷の十三エリアでは、船着き場の整備と周辺の芝生化工事が行われている。今後、淀川大堰開門も設置される予定であると聞いており、十三の船着き場の重要性も高まっていくと思われる。
- ・ もと淀川区役所跡地の複合施設整備や万博開催に向け、淀川河川敷十三エリアのさらなる魅力向上の取組みとして、住民がまちを一緒に育てるような仕組みを構築することで、十三の一体的な魅力向上、淀川区全体のブランド向上につなげることができ、子育て世帯にも住み続けたいと思ってもらえるようなまちになっていけると考える。
- ・ もと淀川区役所跡地にできる新図書館のコンセプトを河川敷にも当てはめ、新図書館と新たな河川敷を連携して活用し、まちの魅力向上につなげたい。河川敷を図書館の広大な閲覧室として活用すれば、交流拠点としての機能を持たせることができる。

また、阪急電車の利用者が河川敷を見て、新しい十三のイメージを感じてもらえるようにできると考えている。

- ・ 河川敷には豊富な自然環境もあるため、うまく共存していけるような取り組みを進めていきたい。

4. 協議会の設置、事業スキーム

(事務局)

- ・ 本協議会の設置要綱については事前に確認いただき、本日承認いただいた。
- ・ 本協議会の検討対象エリアは淀川河川敷、十三船着き場及び今後芝生化するエリアを中心とした河川区域内。民間の活力と国のかわまちづくり支援制度の活用を想定している。
- ・ ハード整備は、行政による基盤整備と、民間事業を組み合わせる。
- ・ マーケットリサーチ等を活用した民間需要調査も行いながら、協議会で整備内容を固めていき、公募等で民間事業者を選定したい。
- ・ 公共事業については、船着き場整備事業と、河川の治水及び利用上の安全・安心に係る河川管理施設となるものを基軸とする。
- ・ 大阪市もしくは当協議会が占用主体となり、占用料を民間事業者との使用契約により賄うスキームを想定している。

5. 十三船着き場整備及びかわまちづくり支援制度の概要

(淀川河川事務所)

- ・ 十三船着き場の整備は今年度より着手している。
- ・ 堤防部のスロープは来年度の整備を予定している。
- ・ インターロッキングブロック、コンクリート舗装は来年度整備を予定している。
- ・ 工事にあたっては、学識者の助言を受け、自然環境の保全に配慮しながら実施している。
- ・ 「かわまちづくり支援制度」は、地域の「かわまちづくり」の取組みを河川管理者が支援する制度。推進主体は「かわまちづくり計画」を河川管理者と共同で作成し、河川管理者は支援制度に登録された計画に基づいて、必要なソフト施策・ハード施策の支援を行う。

6. 将来イメージ

(事務局)

- ・ ハード面の将来イメージについては、大きく分けると堤防の表裏ののり面、河川敷の多目的空間および親水空間という4つの空間をどのように活用していくか。現時点では表のり面は多くの人がくつろげる空間、裏のり面は堤防強化も兼ね盛土をして

面積を増やし、施設の整備ができればと考えている。

- ・ ソフト面については、大阪商工会議所、淀川河川事務所、淀川河川公園管理センターが持つ、隣接する西中島エリアでの豊富なイベント実績をベースに発展させ、地域の住民の主体的な参画が期待できるような取組みを検討していきたい。

7. スケジュールおよび進め方

(事務局)

- ・ 万博開催を一つの目標とし、それまでに本格始動できるよう進める。
- ・ この会議終了後、ご意見を踏まえながら事例収集、PR、意見交換等を実施していく。
- ・ 次回の協議会では、導入する機能の整理、コンセプトの作成、イベントの実施等について検討し、その後マーケットリサーチを実施する。その結果から事業の内容や範囲を整理していく。

8. 意見交換

(嘉名教授)

- ・ 今まで水都大阪に関わってきて、特に淀川は河川空間を利活用すべき場所と考えていた。
- ・ 淀川はポテンシャルがある。韓国ソウルの漢江では、河川周辺が最も価値があるとされている。景色が良く、河川敷のアクティビティが豊富。河川敷を活用することでまち全体が活性化していくと思うので、このプロジェクトが水平的に展開していくことを期待する。
- ・ 十三近辺だけでなく、この魅力向上の取組みを、十三という“点”から、沿川につなげて“線”にしていくことが大事。広がることを前提に視野を広く持ち、淀川区全体のまちづくりにうまくつなげていくことが重要である。
- ・ 一方で、この河川敷にどんな機能、デザインを導入していくかも重要になってくる。阪急電車の利用者の目線も踏まえても、河川堤防に新しく建物ができることはかなり重要だと思っている。
- ・ 河川敷の利用には苦勞する面がある。例えばイベント時のトイレは仮設で、自家発電機を何台も入れないと電力の供給が難しい。インフラ整備をしないとコストの面で民間事業者の利用が難しくなる。民ににぎわいづくりや利便性の提供という公共性を担ってもらいつつ、官が支えるという役割分担を考えることが重要である。
- ・ 水辺のまちづくりでとりわけ重要なことは、地域住民のみなさんと協働していくということ。地域の方に「応援団」になっていただけるようなプロジェクトを進めていくためには、取り組み内容を発信していくことも大事である。
- ・ 淀川は都心河川と少し異なり、生態系が多く残っているため、自然環境の保全と両立させていくことが必要である。

- ・ 具体的に建物等のビジュアルを示しながら進められたらと思う。

(淀川区長)

- ・ にぎわいづくりに向け、もっと自由で柔らかな発想で、主体的に企画提案できるような地域住民主体のチームを立ち上げていきたい。具体的には、区内外、個人法人を問わず、まちをにぎやかにしていきたいという思いを持った担い手を募っていきたい。
- ・ 公共事業については、国には期待するが、まずどうあるべきかを考え、役割分担を決めていきたい。

(近畿地方整備局 淀川河川事務所)

- ・ 十三船着き場の整備については、防災の観点から事業を行っているが、河川敷を災害時にのみではなく日常的に使うということが大事である。
- ・ 河川事務所では、八軒家と枚方を結ぶ観光船等の舟運を活用した社会実験を行っている。沿川では淀川舟運を活用して地域を活性化させる動きが活発化している。
- ・ 来年度には淀川大堰閘門の工事にも着手するため、河口や十三を含め下流地域から上流地域まで航路がつながる。
- ・ 十三エリアが活性化することは非常に重要と考えており、できる限りの協力をする。
- ・ かわまちづくり制度の活用にあたっては、普段から使っていただける地域の方々のご意見も大事と考える。船に乗って川側からの景色も見てもらうなど淀川の眺望についてイメージをつかんでもらい、アイデアを一緒に出して行ければと思う。
- ・ 淀川は台風等で水位が上がり荒れ狂うこともあるため、もしものときのリスクを念頭に置いて計画していく必要がある。河川法には制約があり、安全のためには厳守しなければならない部分もあるので、課題を共有しながら計画設計していきたい。
- ・ 淀川は非常にポテンシャルが高いと思っている。堤防を越え、地域と結びついて一緒になって進めていきたい。

(淀川区長)

- ・ 防災という観点からのスタートであるが、今後の舟運の活性化にも区として期待している。河川の防災面については、連携をとって進めていきたい。

(十三地域活動協議会)

- ・ 十三地域としては、人口の出入りが多いことが当初からの一番の課題。人口増につながっていけばと思う。
- ・ 安全面、防災面については、広域避難場所の整備をお願いしたい。また、夜間の利用者も多いことから、防犯面の取組みも考慮していただきたい。
- ・ 2025年に向けて、地域としてできることは協力したい。

(淀川区長)

- ・ 地域住民の意見をいただき、声を聴き、進めていきたい。

(十三連合振興町会)

- ・ 淀川のそばで生まれ育ってきた。淀川のことは誰よりも知っている。
- ・ 朝からジョギングなどをされている方は、堤防下の細い舗装路だけしか使用できていなかった。河川敷の整備が行われ、芝生の整備も終わり広く使えるようになってきている。西中島のバーベキュー広場と一体となるような公園になったら素晴らしいと思う。
- ・ 子どものころに見えていた川辺が、今は野草が多く見えなくなっている。岸辺も綺麗に整備ができれば、昔のように魚釣りができる。
- ・ 夜に河川敷を利用される方も多く、防犯面でもインフラ整備ができればよいと思う。地域として取り組んでいくのでよろしくをお願いしたい。

(区長)

- ・ 淀川とともに育った会長ならではの、歴史を踏まえたご意見はありがたい。

(淀川区商店会連盟)

- ・ 商売という面でも、防災に気を付ける必要がある。商店街ビジョンを研究しており、昨年秋からは自然災害、大火災、テロ攻撃など緊急事態に備え、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく事業継続計画（以下、BCP）の策定に取り組んでいる。自然災害、感染症、テロ対策に商店街としてどう対応していくのか、通行客に対してどう安全を確保していくのかということに頭を悩ませているところ。
- ・ かつての商店街には一日1万5千人以上の通行があったという統計があるが、今や半分以下であり、さらに子どもの声はほとんど聞こえない。もと淀川区役所跡地のマンションの建設によってファミリー層が増えることについては、商店会も期待している。そういったことを踏まえたまちづくりを、我々も考えていかねばならない。

(淀川区長)

- ・ 区の商店会連盟はBCPに熱心に取り組んでおられる。「防災にも気を配っている安心のまち」という点は、区のにぎわいにつながると思う。
- ・ もと淀川区役所跡地には、ファミリータイプのタワーマンションが建つ。子育て世帯を呼び込むことができると期待している。また、居住者だけでなく、阪急電車の車窓から見る人も十三に呼び込み、商店街を利用していただくことにつながればと思う。

(大阪商工会議所)

- ・ 水辺の活性化について、さまざまな提言を行ってきた。中央区本町橋が今年の夏に

形になる。淀川の活性化について行った提言では、京都から十三を通り海に出るような舟運のルートなど、淀川を名所的なものにできないかという提言を行ってきた。この協議会が立ち上がり、具体的に進めることができるということで非常に嬉しく思っている。

- ・ 大きな河川を活性化させるということは全国にも例がない。課題も見つかると思うが、民間として、民間の力によって活性化につながるように参画していきたい。公共事業のハード整備が、その後の民間企業によるその空間への投資につながっていくと思うので、官民連携で取り組んでいきたい。さまざまな方に興味を持っていただき、進めていきたい。

(淀川区長)

- ・ 視野の広い提言をいただいた。今後も会員への情報発信や、ネットワークを活かした情報発信の担い手として期待している。

(淀川河川公園管理センター)

- ・ 長く淀川に関わってきた身として、この協議会によって淀川の魅力が広く発信できる機会を得ることができ、大変喜ばしい。これが起爆剤となって、上下流域ににぎわいが展開できれば嬉しい。
- ・ 淀川河川公園管理センターとしては、2018、2019年の2年間、「アーバンキャンプ」のコーディネーターとして実証実験に参画した。地元企業等の協力を得ながら、高水敷を活用したキャンププログラムやアクティビティ、小学生を対象とした自然体感プログラムの展開を行った。また、淀川河川敷フェスティバルについても、協賛・協力を行うなど、多くの取組みを実施してきた。
- ・ 2020年からは、この社会実験の結果を活かし、河川敷の有効活用につながる「より広いニーズに応えられるようなにぎわいづくり」を図っていくことを目的として、西中島と十三野草地区で淀川アーバンフロント2020を展開した。自然環境との調和や、地元関係者と連携した持続可能なにぎわい創出などの事業コンセプトのもと、我々の経験を活かしてこの協議会で取り組む事業とも連携が図れればと考えている。

(淀川区長)

- ・ 淀川アーバンキャンプやアーバンフロントでは、広報誌「よどマガ!」で協力させていただいた。多くの方々に、淀川河川敷の観光資源としてのポテンシャルを実感できる実績を積み重ねておられるので、そのノウハウを活かしていただけたらと思う。
- ・ 淀川河川敷フェスティバルとの協働や、河川敷利用者に銭湯を利用していただくなど、地元との連携を考えていただいている。十三エリアだけでなく、西中島エリアと一体的に活用するような展開につながればと思う。

(阪急電鉄株式会社)

- ・ 十三駅は神戸線・京都線・宝塚線の3線が交わる地点であり、乗降と乗換の人員を合わせると1日20万人を超える、大阪梅田駅に次ぐ拠点である。
- ・ 現在、十三を經由したなにわ筋連絡線、新大阪連絡線を構想中である。
- ・ 都市再生緊急整備地域の候補地域として、新大阪駅周辺の地域が協議会で検討されているところであるが、阪急としてはこの十三駅も含めて検討していきたい。
- ・ 新型コロナの影響で鉄道事業者は苦しいところであるが、このような新しい希望があるのは非常にありがたい。
- ・ もと淀川区役所跡地の開発については、阪急阪神不動産で関与している。新線構想や、関連施設も含めた再整備についても構想を進めていきたい。阪急電鉄のみならず、阪急阪神グループ全体で取り組んでいくので、ぜひご協力をお願いしたい。
- ・ 今回の取組みは河川についてであるが、道路や公園の民間事業者による利活用も進められている。河川においても、民間の建築物ができるのは素晴らしいこと。
- ・ 情報発信については、広告や関連会社で協力していきたい。

(淀川区長)

- ・ 今後の十三駅、新大阪駅を考えると、ポテンシャルと将来の期待も高まっている。阪急電鉄は淀川区にとって重要な交通機関であり、できる限り連携していきたい。
- ・ てんしばや大阪城を見ている、行政がすべてではないと思う。皆さま方のご協力をお願いしたい。

(近畿地方整備局河川部)

- ・ かまちづくり支援制度は平成21年(2009年)に創設され、現在まで229か所登録されている。本年度にも全国で新たに9か所が登録され、合計238か所となった。近畿では本年度1箇所登録され、合計23か所登録されている。
- ・ 「かまちづくり支援制度」は、自治体や民間、地域住民、そして我々河川管理者が連携し、良好な空間やにぎわい創出を目指す取組み。いかに連携して持続的なにぎわいづくりをしていくかが重要となるので、行政はもちろん地域、民間の方が中心になる事が必要。この協議会を通じて整備局としても支援していきたい。

(淀川区長)

- ・ 実績はあるが、やはり地域の協力が不可欠ということ。地域には積極的に関わりたい人もいると聞いている。こちら積極的に協力していきたい。

(近畿地方整備局建政部)

- ・ このプロジェクトで、西中島など周辺の河川公園もよりにぎわうことになる。公園を管理する立場から、ソフト面における河川公園のイベントと連携した取組み等

で連携していきたい。

(淀川区長)

- ・ 区民の中では、西中島エリアでバーベキューやアーバンフロントなど河川利用が浸透してきている。区民の立場からすれば西中島も十三も同じ河川敷。連携していければと思う。

(大阪府住宅まちづくり部)

- ・ 大阪府では、「グランドデザイン・大阪」で大阪、新大阪の一带を一体のまちと捉え、間を流れる淀川を活用しながらまちづくりを進めていく計画がある。
- ・ 水都大阪の取組みにおいては、八軒家と枚方の定期航路がある。さらに舟運の取組みを進めていく上で、沿川のまちづくりが大切になる。「淀川まちづくりプラットフォーム」を設立し、プロモーションビデオや沿川をつなぐイベントなどでまちづくりの展開を狙っている。
- ・ 舟運航路を広げるため、淀川大堰の改修を要望している。海と川をつなぐ航路が、沿川の活性化につながると期待している。連携によるまちづくりを進めていきたい。

(淀川区長)

- ・ 非常にスケールの大きな話。淀川が上流から下流までつながるなかで、淀川区が起爆剤となり、大阪全体の活性化につながればよい。

(大阪市都市計画局)

- ・ かわまちづくりで大事なものは、いかに地域密着にしていけるか。長く地元に住んでいる地域の住民と一緒に、愛される空間にしていきたい。
- ・ 人の動線に着目したい。起点は十三駅になるので、駅から河川敷へどう流動してもらえるか、また、地域に回遊してもらえるかが重要である。
- ・ 訪れた方が滞在しやすいサービス施設等の仕掛けが必要。施設の内容や規模も重要となってくる。
- ・ まちづくりを担っている局として、淀川区役所と連携して検討を進めていきたい。

(淀川区長)

- ・ 新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域についても、淀川の自然環境の活用等の点で近隣区と連携して進めていく。
- ・ 都市計画局とは今までノウハウの面等で連携してきたので、力をお貸しいただき、大阪市一体となって進めていきたい。

(水都大阪コンソーシアム)

- ・ 「水と光の首都大阪」の実現に向け、2017～2019年までは毎年100万人を超える方に、市内の観光クルーズに乗船していただいた。その中で課題も見えてきた。道頓堀は水辺スポットとして広く認識されているが、八軒家はまだまだ。やはり商業施設の協力や、地元の方等に使ってもらうことがないと意味がないと身をもって感じている。
- ・ 水都大阪ビジョンでは持続的な成長につなげていく段階に入っている。これまで以上に広がりやつながり、ネットワークを活かしてやっていきたい。

(淀川区長)

- ・ 天神祭のどんどこ船に乗せてもらったことがあるが、船は人の気持ちをかきたてる効果もあると思う。水都大阪は大阪全体の取組みだが、そこで取り上げられるような事業であることを淀川区として光栄に思う。大阪の北の玄関口をアピールしていくとともに、経験やネットワークの協力をお願いしたい。

(嘉名教授)

- ・ 地域の方とも応援団を作っていくことができるのとこと、役者は揃っていると思う。今後、安全や景観などを整理していくことになる、活発な意見をもって進んでいける。地元の方と意見交換しながら進めることができればと思う。

(淀川区長)

- ・ 西日本全体の玄関口である新大阪、そこにつながる十三駅周辺、その重要な観光資源である淀川河川敷の魅力向上が実現することは、十三、淀川区のみならず大阪府域、またはそれ以上に波及する大きな効果を望めると考える。
- ・ 引き続きご理解ご協力をお願いしたい。

9. 閉会

以上